

# 私の消防団PRIDE

第二十九回 保土ヶ谷消防団第四分団 輪田団員

令和4年 6月1日掲載

保土ヶ谷消防団第四分団第2班の輪田と申します。

令和3年に還暦を迎えました。

仕事・家庭・順調に子育て、と。月並みですがどうにか今を迎えております。

2015年、結婚当初に手に入れたマンションから老後のことを考えて駅まで徒歩圏内である現在の住まいとなります西谷へと移り住みました。

保土ヶ谷消防団へ入団したきっかけは、移り住んだ家の目の前にある公園で開催された春の火災予防運動のイベントでした。

参加した際に、災害時や救急が必要な時に「自分に何ができる?!」と考え、不安や危機感を持った時に目に入ってきたのが「消防団員募集」の文字でした。

ボランティアにもならないかもしれませんが、せめて自分や家族個人が協力できることがあればと団員募集へ応募させていただき2016年7月に入団、現在に至ります!

人生を折り返し、先をゆっくりと考えられるようになりました。

まだまだ、知らないことや出来ないことも沢山あります。

もっと身体が動く時、頭が回る時にやっておけば良かったとも思いますが、まだもう少し奮闘可能かな?! (笑)

自分なりに時間をやりくりし、未だ新しいことへのチャレンジ中ですが、無理せずに地域の方々と繋がる機会にもなっております。

いつでも「まずは一歩!!」の気持ちで、心の歩みを止めずに生きていけたら～と思っています。

皆さんも、是非ご一緒にいかがですか?♡



最後列一番右が輪田団員  
(写真撮影時のみマスクを外しています。)

# 私の消防団PRIDE

第三十回 保土ヶ谷消防団第一分団 小林部長

令和4年7月1日掲載

## ◆消防団員になって思うこと。

入団のきっかけは2011年の大震災でした。

一方で、当時私は職場の責任者として安全管理に関して、職員からの批判を受けていました。

自分ではしっかりやっているつもりだったのですが。。。

消防団員になれば、その辺が身について自分のためになると考えたのです。

幸い所属した班の先輩たちが経験豊かで楽しい人達ばかり。

今でも消防団員を続けていられるのは、そんな先輩たちのおかげだと感謝しています。

とはいえ、入団当初はやる気はあっても、やる事なす事すべてが空回り、失敗の連続でした。

新入団員の訓練の手伝いで、媒介の操作を誤り、筒先の女性団員にちょっとした怪我を負わせてしまったこともあります。（かすり傷程度で済みましたが）

また、管轄区域での夜間の火災に出動した際のことです。

団員幹部の指示の元、張り切って動いたのですが、現場を照らす為の発電機の燃料が切れていて、おまけに投光器も球切れでした。

怒鳴られ、うろたえながら、他の班の器材を借りに行く始末。その火災は一名の死者を出して、深夜の二時頃に鎮火しました。

地元だったので、他の団員と共に最後の片付けを行い、真冬で放水した水が凍りかける中、虚しく家路に着いたのを覚えています。

そんなこともあり、その後は同僚の助けを借りて資機材の整備に力を注ぎ、また団や消防署が計画する研修に積極的に参加するようになりました。団員として何が必要でどうすべきか、身につける技術は何かなど、日々学ぶことばかりです。

日常生活、職場で活かせるものは繰り返し身につけるようにしました。結索や機材の取り扱い、安全管理など。散歩中に礼式の動作を取り入れたりもしました。

そんな積み重ねの中で気づいたことは、自分のような失敗をしない団員の育成です。そこで、いまは実際に先輩や同僚の助けを借りて色々な訓練の計画を進めています。

ただ、資機材を取り扱う訓練の前日などは参加者がケガをしないように準備したのか、不安で寝つけないこともあります。

大事な慣れ過ぎてはダメだということ。これを自分に言い聞かせながら、毎回訓練にのぞんでいます。

